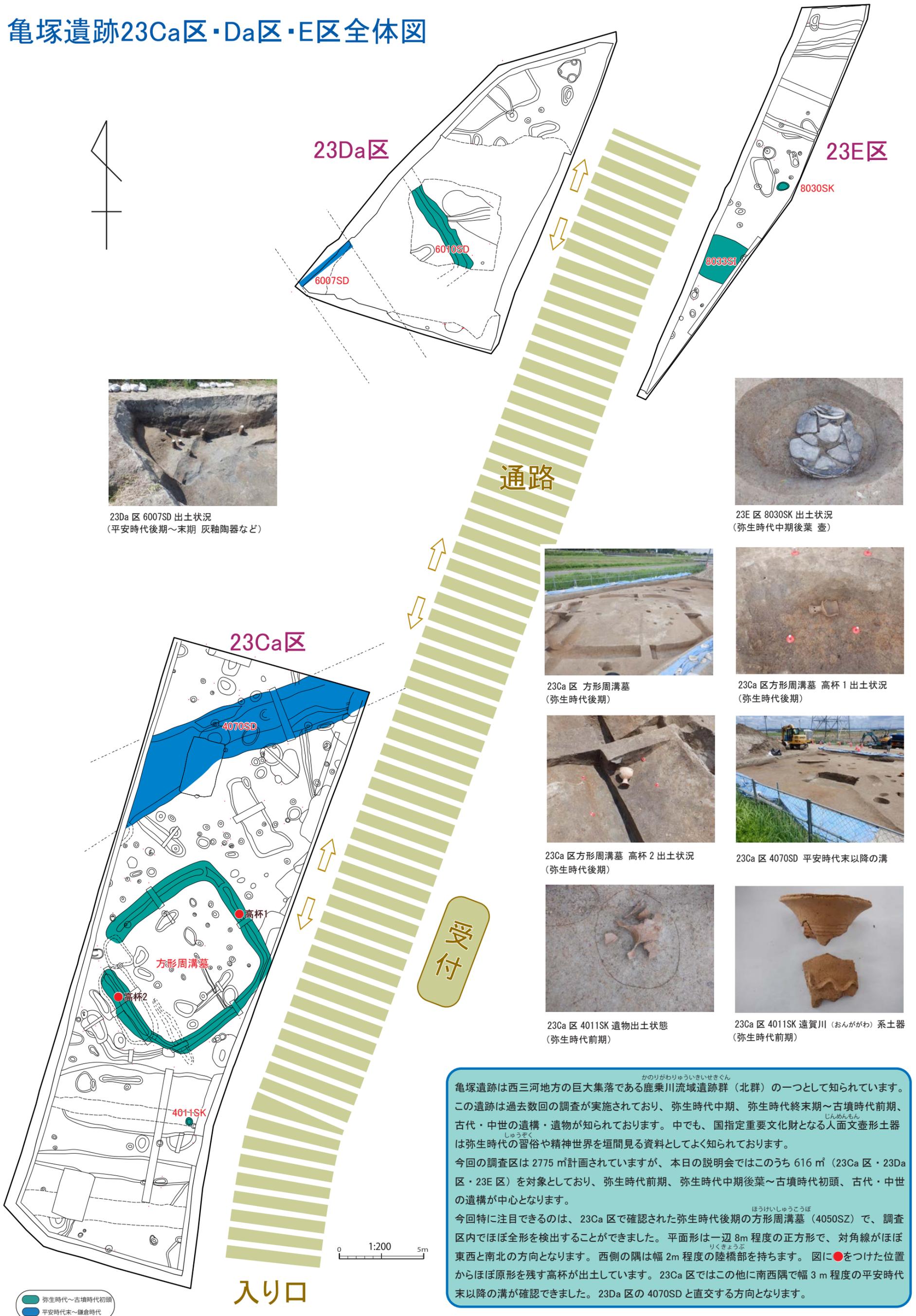


亀塚遺跡23Ca区・Da区・E区全体図



23Da区 6007SD 出土状況
(平安時代後期～末期 灰釉陶器など)



23E区 8030SK 出土状況
(弥生時代中期後葉 壺)



23Ca区 方形周溝墓
(弥生時代後期)



23Ca区 方形周溝墓 高杯 1 出土状況
(弥生時代後期)



23Ca区 方形周溝墓 高杯 2 出土状況
(弥生時代後期)



23Ca区 4070SD 平安時代末以降の溝



23Ca区 4011SK 遺物出土状態
(弥生時代前期)



23Ca区 4011SK 遠賀川(おんががわ)系土器
(弥生時代前期)

亀塚遺跡は西三河地方の巨大集落である鹿乗川流域遺跡群(北群)の一つとして知られています。この遺跡は過去数回の調査が実施されており、弥生時代中期、弥生時代終末期～古墳時代前期、古代・中世の遺構・遺物が知られております。中でも、国指定重要文化財となる人面文壺形土器は弥生時代の習俗や精神世界を垣間見る資料としてよく知られております。

今回の調査区は2775㎡計画されていますが、本日の説明会ではこのうち616㎡(23Ca区・23Da区・23E区)を対象としており、弥生時代前期、弥生時代中期後葉～古墳時代初頭、古代・中世の遺構が中心となります。

今回特に注目できるのは、23Ca区で確認された弥生時代後期の方形周溝墓(4050SZ)で、調査区内でほぼ全形を検出することができました。平面形は一辺8m程度の正方形で、対角線がほぼ東西と南北の方向となります。西側の隅は幅2m程度の陸橋部を持ちます。図に●をつけた位置からほぼ原形を残す高杯が出土しています。23Ca区ではこの他に南西隅で幅3m程度の平安時代末以降の溝が確認できました。23Da区の4070SDと直交する方向となります。

● 弥生時代～古墳時代初頭
● 平安時代末～鎌倉時代